



日本原子力学会・炉物理連絡会

# 炉物理連絡会ニュース (No. 19)

1993年7月21日発行

## 目次

第51回「炉物理連絡会」総会議事要旨	1
炉物理国際会議日本開催について	2
第16回研究試験炉燃料濃縮度低減化国際会議	2

### 1. 第51回「炉物理連絡会」総会議事要旨

1993年3月28日(12:00~13:00) 於 京大 原子力学会春の大会会場

はじめに、関本博前年度委員長の司会で平成4年度委員の承認が行われた。その後、高橋亮人新委員長により議事が進められた。

- 1) 平成4年度事業報告
  - 第24回「炉物理・夏期セミナー」開催。東北工科大学にて。幹事校：東北大。
  - 「連絡会ニュース」17号18号刊行。
  - 「炉物理の研究」特別号発行。
  - 「古橋基金」若手研究者発表のための旅費として3名に支給。

- 2) 平成4年度決算報告
  - 収入 3,050,171 円、支出 578,685 円で、471,486円を次年度に繰り越す決算が報告され、了承した。

- 3) 新委員選出
  - あらかじめ通知されていた候補者について前年度委員長により承認の一括提案がなされ、白手にて承認された。今年度委員は以下の通り。

- 委員長 高橋亮人(阪大・工)
- 副委員長 成田正邦(北大・工)
- 企画 山根義宏(名大・工)
- 企画 三沢 毅(名大・工)
- 総務 竹田敏一(阪大・工)
- 総務 小原 徹(東工大・原研)
- 編集 神野郁夫(京大・工)
- 編集 橋本憲吾(近大)

- (4) 部会制導入についての議論
  - 工藤和彦企画委員より、以下のように状況報告がなされた。
  - 学会として部会制の規定ができた。核融合、燃料、廃棄物連絡会はそれぞれ規定を作り、承認されれば4月1日から部会となる。マンマシン連絡会は部会へ移る積もりだが、まだ検討が必要である。炉物理連絡会、海外連絡会はまだ部会へ移行する準備が出来ていない。海外連絡会は、その性格上連絡会に止まるであろう。
  - 炉物理連絡会だけが連絡会のままである。

つづいて、部会制をどのように考えるかの議論があり、以下の結論となった。

炉物理連絡会を「部会」へ移行する方向で検討委員会を作る。その委員は大学、原研、動燃、メーカーから選出する。夏の学校においても内容を検討する。秋の連絡会で部会移行について議決する。

#### (5) 夏期セミナー

7月27日(火)～29日(木)、長野県菅平高原国際リゾート会館において行う。教官にも多数出席してほしいとの意見があった。

#### (6) 古<sup>橋</sup>基金について

昨年は暫定措置として夏期セミナー用旅費とした。援助条件は若手発表者であり、教官の推薦が必要。昨年は、申請者6名中、3名に支給。

#### (7) 報告

秋の大会は10月9日～11日に神戸商船大において、春の年会は3月29日～31日に筑波大において、開催される。

論文投稿は1年におよそ30編あり、欧文誌は印刷待ちの状態。

英

### 2. 炉物理国際会議(PHYSOR'96)日本開催について

ANS Reactor Physics Topical Meeting が1996年に日本で開催される予定である。この会議は、日米両原子力学会がsponsorとなり、organized by JAERI Coorganized by PNCとして行われる。本年秋、十数名からなる準備委

員会を発足させる。準備委員会では、開催時期('96年2月～5月)、会期、場所、会場、トピックス、運営、国内外プログラム委員会の組織、規模及び予算等について検討する。

### 3. 第16回研究試験炉燃料濃縮度低減化国際会議(RERTR)の開催について

The 16th International Meeting on Reduced Enrichment for Research and Test Reactors

主催：日本原子力研究所  
後援：京都大学原子炉実験所  
協賛：米国ANL  
期日：1993年10月4日(月)～7日(木)  
参加国：日本他約20ヶ国  
参加費：無料  
連絡先：日本原子力研究所大洗研究所  
材料試験炉部 材料試験炉業務課  
TEL 0292-64-8303  
FAX 0292-64-8480

#### 会議のスケジュール

10月4日(月)  
各国の濃縮度低減化計画  
燃料開発及び製造  
燃料の照射試験及び評価

10月5日(火)  
燃料の照射試験及び評価  
低濃縮燃料への炉心転換研究及び安全評価

10月6日(水)  
燃料サイクル  
研究試験炉の利用及びその他  
ソーシャルツアー

10月7日(木)  
研究試験炉の利用及びその他  
Round Table Discussion  
施設見学(施設未定)

#### 会議の目的

1977年の米国カーター政権の核不拡散政策を受け、各国において試験研究炉の燃料濃縮度低減化のための技術開発が開始された。これにともなって、各国の濃縮度低減化を円滑に進めるため、低濃縮燃料の照射データなどの情報交換の場としてRERTR国際会議が開催されている。なお、本国際会議は1978年から毎年1回開催されている。